

平成 28 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	東京大学大学院総合文化研究科	職名	博士課程	助成金額	20 万円
氏名	近藤 亮介		印		
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）					
大西洋を渡ったピクチャレスク—19 世紀アメリカの風景におけるピクチャレスク美学の潜勢力					
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>助成金を使用して、下記の通りアメリカで調査を行った。</p> <p>《2017 年 5 月 29 日～6 月 3 日：ニューヨーク》 プラット・インスティテュート (Pratt Institute) にて、ニューヨーク公園局関係者との研究会を開催した。発表者の一人、フランス庭園研究者兼ランドスケープ・アーキテクトの Joseph Disponzio 氏は、19 世紀ニューヨークの造園に関連して、現在のキセナ公園 (Kissena Park) の一部に、アメリカで初めて日本のイロハモミジを紹介した種苗業者がかつてあったことを発見し、そこを拠点に全米へイロハモミジが移植されたことを指摘した。また、研究会の他に、フレデリック・ロー・オルムステッドが 1840 年代に居住していたスタテン島の農場跡地、セントラル・パーク、プロスペクト・パークなどでフィールドワークを行った。</p> <p>《2017 年 6 月 4 日～23 日：ワシントン DC》 ハーバード大学附属ダンバートン・オークス研究所 (Dumbarton Oaks) の庭園・風景部門にて、3 週間の大学院生向け夏期研究会・合宿に参加し、同研究所関係者およびアメリカ各地から集まった大学院生・研究者・専門家とともに、研究会およびフィールドワーク (マウント・バーノン、ナショナル・モール、ブルックリン・ブリッジ・パーク、ガバナーズ島、ニューヨーク植物園) を行った。特に、庭園・風景部門副ディレクターの Anatole Tchikine 氏やペンシルベニア大学の John Dixon Hunt 名誉教授の講義では、アメリカ・イタリア・フランスの造園史について体系的に学ぶ機会を得た。また、同研究所・貴重書コレクションとアメリカ議会図書館 (Library of Congress) にて、司書の Frederick J. Augustyn, Jr. 氏協力のもと、ハンフリー・レプトンやジョン・ラウドン、オルムステッド関連の一次資料収集・調査を行った。</p> <p>以上の調査を通して、アメリカとイギリスの 19 世紀造園比較や、オルムステッドの「ピクチャレスク美学」理解・初期思想だけでなく、アメリカにおける日本・イタリア・フランス各国の造園や植物の影響についても知見を広げることができた。今後は、イギリス以外の国の影響関係も考慮に入れながら、アメリカの風景表象・造園におけるピクチャレスク美学の受容・変容についての論文をまとめ、次年度中に学会誌で発表する予定である。さらに、19 世紀後半から 20 世紀初頭 (明治・大正時代) の日本におけるピクチャレスク美学およびヨーロッパ式造園の受容 (イギリス [ジョサイア・コンドル設計の邸宅・庭園]・フランス [アンリ・マルティネ設計の新宿御苑]・ドイツ [マックス・ベルトラム著書に基づく日比谷公園]) についても精査し、日米の近代造園比較へと研究を発展させていきたい。</p>					
助成金の使用金額及び用途					
<ul style="list-style-type: none"> アメリカ国内交通費 (ボストン—ニューヨーク—ワシントン DC 間) : 4 万円 現地滞在費 (ニューヨークおよびワシントン DC) : 16 万円 					
助成金を使用した成果に関する発表 (インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。)					